

笠井一郎20150816 70年談話を読み解く

[Facebook](#) [ML市民社会フォーラム](#) pdf

原文出典：毎日新聞20150814 [70年談話：安倍晋三首相談話全文](#)

[村山談話](#)（1202文字）や[小泉談話](#)（1076文字）と比較して殊更に文字数（安倍談話：3056文字）が多く、しかも主語や掛かり受けがあやふやだったり、日頃の言動や立法化されようとする内容と真逆だったり、ここは私なりの解釈を明記して皆さまと共有できればと考えました。

A： 終戦七十年を迎えるにあたり、先の大戦への道のり、戦後の歩み、二十世紀という時代を、私たちは、心静かに振り返り、その歴史の教訓の中から、未来への知恵を学ばなければならぬと考えます。

A： 「先の大戦への道のり」と「戦後の歩み」のハザマの時間帯には言及しないという明確な意思表示だと思います。

B： 百年以上前の世界には、西洋諸国を中心とした国々の広大な植民地が、広がっていました。圧倒的な技術優位を背景に、植民地支配の波は、十九世紀、アジアにも押し寄せました。その危機感が、日本にとって、近代化の原動力となったことは、間違いありません。アジアで最初に立憲政治を打ち立て、独立を守り抜きました。日露戦争は、植民地支配のもとにあった、多くのアジアやアフリカの人々を勇気づけました。

B： 「・・・勇気づけた」かも知れませんが、日本国側の被害も大きく、これといった戦利品もなかったのも、日本国民からブーイングされました。富国強兵と脱亜入欧で植民地主義政策を後追いで追いつけ追い越せと勇んでいた姿が日本国民の性根にもしっかりと根付き始めた頃なのですね。

C： 世界を巻き込んだ第一次世界大戦を経て、民族自決の動きが広がり、それまでの植民地化にブレーキがかかりました。この戦争は、一千万人もの戦死者を出す、悲惨な戦争でありました。人々は「平和」を強く願い、国際連盟を創設し、不戦条約を生み出しました。戦争自体を違法化する、新たな国際社会の潮流が生まれました。

C： 不戦条約に「国際紛争を解決する手段としての戦争を禁止する」という条項を差し挟んだのは米国でしたね。自衛のための戦争は許容されることになり、以来、全ての戦争（紛争・事変・事態などでの武力行使）は「自衛のため」となります。日本国憲法の9条1項にもこの文句が差し挟まれているので、個別的自衛権発動のための戦争は現行憲法でも合法になります。ただし、国連憲章では51条に「安保理が必要な措置を採るまでの間に限って」という制限があるのですが、大国が拒否権を行使したりで、実際は、個別的自衛権はおろか、拡大解釈の集団的自衛権や予防戦争という絵空事まで描いて、武力行使に及ぶのが現実です。9条2項に戦力の不保持や交戦権を認めないと有りますが、2項にあるため、1項を補足するという意味合いであ

	<p>ると解釈されるのが歴代自民党政権の主張する「専守防衛に限り（武力を保持し行使できる）」という理屈ですので屁理屈と云うほどの類ではありません。。</p>
<p>D : 当初は、日本も足並みを揃えました。しかし、世界恐慌が発生し、欧米諸国が、植民地経済を巻き込んだ、経済のブロック化を進めると、日本経済は大きな打撃を受けました。その中で日本は、孤立感を深め、外交的、経済的な行き詰まりを、力の行使によって解決しようと試みました。国内の政治システムは、その歯止めたりえなかった。こうして、日本は、世界の大勢を見失っていきました。</p>	<p>D : TPP断固反対というポスターをそこら中に貼りまくってた自民党ですが、舌の根も乾く間もなくTPP交渉のテーブルに着き、交渉内容を明らかにしないで「交渉が難航している」とか「山場を迎えている」とか意味不明の言葉を垂れ流すだけで、どうやら「難しい交渉なので譲歩せざるを得ない場面もあった」とか云って、（ISD条項やラチェット規定に代表される）不平等で不利益な条約を結んでしまい、農産物はおろか、ゆくゆくは日本の健康保険システムや年金システムまでもが非関税障壁などと言われて提訴され、莫大な賠償金を支払わされた挙げ句、社会保障システムが破壊する可能性がある条約です。TPPはアメリカを中心とする「経済のブロック化」に他なりません が、、、「歴史の教訓の中から、未来への知恵を学ばなければならない」と冒頭に述べたことと真逆ですね。</p>
<p>E : 満州事変、そして国際連盟からの脱退。日本は、次第に、国際社会が壮絶な犠牲の上に築こうとした「新しい国際秩序」への「挑戦者」となっていった。進むべき針路を誤り、戦争への道を進んで行きました。</p>	<p>E : その「戦争」とはどのような戦争だったのですか？</p>
<p>F : そして七十年前。日本は、敗戦しました。</p>	<p>F : パラグラフAと同様に戦争中の状況認識についてコメントしないということですね。</p>
<p>G : 戦後七十年にあたり、国内外に斃れたすべての人々の命の前に、深く頭を垂れ、痛惜の念を表すとともに、永劫の、哀悼の誠を捧げます。</p>	<p>G : 「国内外に斃れたすべての人々」といいますが、続くパラグラフから察するに、どうやら日本人だけでなく、外国人も含まれるのだと分かる訳ですが、なぜ斃れた（戦争で死亡した）のか、その状況認識に欠けてます。</p>
<p>H : 先の大戦では、三百万余の同胞の命が失われました。祖国の行く末を案じ、家族の幸せを願いながら、戦陣に散った方々。終戦後、酷寒の、あるいは灼熱の、遠い異郷の地にあって、飢えや病に苦しみ、亡くなられた方々。広島や長崎での原爆投下、東京をはじめ</p>	<p>H : 戦争遂行者の責任に触れないのは無責任ですね。天変地異ではないのですから。</p>

<p>め各都市での爆撃、沖縄における地上戦などによって、たくさんの市井の人々が、無残にも犠牲となりました。</p>	
<p>I : 戦火を交えた国々でも、将来ある若者たちの命が、数知れず失われました。中国、東南アジア、太平洋の島々など、戦場となった地域では、戦闘のみならず、食糧難などにより、多くの無辜の民が苦しみ、犠牲となりました。戦場の陰には、深く名誉と尊厳を傷つけられた女性たちがいたことも、忘れてはなりません。</p>	<p>I : 「戦火を交えた国々」といいますが、どこの国がどこの国に対してどういった理由で、がスッポリ抜けています。「深く名誉と尊厳を傷つけられた女性たち」も意味不明です。従軍慰安婦の事なののでしょうか。サッパリ分かりません。</p>
<p>J : 何の罪もない人々に、計り知れない損害と苦痛を、我が国が与えた事実。歴史とは実に取り返しのつかない、苛烈なものです。一人ひとりに、それぞれの人生があり、夢があり、愛する家族があった。この当然の事実をかみしめる時、今なお、言葉を失い、ただただ、断腸の念を禁じ得ません。</p>	<p>J : 「何の罪もない人々に、計り知れない損害と苦痛を、我が国が与えた事実」では具体的な説明に欠けています。</p>
<p>K : これほどまでの尊い犠牲の上に、現在の平和がある。これが、戦後日本の原点であります。</p>	<p>K : 「尊い犠牲」は「尊い命の犠牲」とでも言いたかったのでしょうか？</p>
<p>L : 二度と戦争の惨禍を繰り返してはならない。</p>	<p>L : 戦争法案を上程した人間が、本当に嘘つきですね。武藤議員は正直でした。「戦争法案に反対するのは戦争に行きたくない利己的な考えだからだ。」と。法案の本質を知っているからこそその発言でしょう。</p>
<p>M : 事変、侵略、戦争。いかなる武力の威嚇や行使も、国際紛争を解決する手段としては、もう二度と用いてはならない。植民地支配から永遠に訣別し、すべての民族の自決の権利が尊重される世界にしなければならない。</p>	<p>M : 特に新しいことを言っている訳ではありません。自衛権の発動はいかなる場合でも担保される。拡大解釈も当然あり得る、と言っているだけです。</p>
<p>N : 先の大戦への深い悔悟の念と共に、我が国は、そう誓いました。自由で民主的な国を創り上げ、法の支配を重んじ、ひたすら不戦の誓いを堅持してまいりました。七十年間に及ぶ平和国家としての歩みに、私たちは、静かな誇りを抱きながら、この不動の方針を、これからも貫いてまいります。</p>	<p>N : 労組関係者も反省した方がいいと思いますが、日本国の高度経済成長は日本人が特段に優秀で勤勉であったからではありません。朝鮮戦争やベトナム戦争など戦争特需があったからです。数百万の犠牲者の屍の上に立脚した資本主義経済の成した業です。兵站支援で築いた富です。国際法に照らし合わせれば、兵站支援は交戦権の行使そのものであり、日本国憲法違反です。危険な場所での武力行使ではないから許されるというモノでは</p>

	ありません。従って「（七十年間に及ぶ）平和国家」だったというのは、詭弁です。左翼系の人方もこの点は認識を新たにさせていただきたいと痛切に感じるところです。
○： 我が国は、先の大戦における行いについて、繰り返し、痛切な反省と心からのお詫びの気持ちを表明してきました。その思いを実際の行動で示すため、インドネシア、フィリピンはじめ東南アジアの国々、台湾、韓国、中国など、隣人であるアジアの人々が歩んできた苦難の歴史を胸に刻み、戦後一貫して、その平和と繁栄のために力を尽くしてきました。	○： お詫びを（過去の談話から）引用しただけで、安倍首相がお詫びを表現した訳ではありませんでした。日本政府はこれまで、戦争被害者に対し、遺憾の意を表し、弔慰金を支払った場面はありました。国家無答責の法理に基づき、認罪をせず、賠償金を支払った訳ではありません。そういった意味で日本政府の方針は現在まで「戦後一貫して」います。
P： こうした歴代内閣の立場は、今後も、揺るぎないものであります。	P： 確かに。困ったことですが、、、
Q： ただ、私たちがいかなる努力を尽くそうとも、家族を失った方々の悲しみ、戦禍によって塗炭の苦しみを味わった人々の辛い記憶は、これからも、決して癒えることはないでしょう。	Q： そうですね。罪を認めないのでから「これからも、決して癒えること」はありません。
R： ですから、私たちは、心に留めなければなりません。	R： そうです。
S： 戦後、六百万人を超える引揚者が、アジア太平洋の各地から無事帰還でき、日本再建の原動力となった事実を。中国に置き去りにされた三千人近い日本人の子どもたちが、無事成長し、再び祖国の土を踏むことができた事実を。米国や英国、オランダ、豪州などの元捕虜の皆さんが、長年にわたり、日本を訪れ、互いの戦死者のために慰霊を続けてくれている事実を。	S： ええっと、置き去りにされた一番の原因は、関東軍（日本軍）が開拓団を見捨てて真っ先に退却したからでしょう。ソビエト軍の侵攻を阻むという理由で幹線道路の橋脚などを破壊もしましたね。中国残留孤児が大人になってからも日本政府はつれない対応でした。帰国された方の中にはアイデンティティクライシスに悩み、自死された方もいらっしゃるそうです。
T： 戦争の苦痛を嘗め尽くした中国人の皆さんや、日本軍によって耐え難い苦痛を受けた元捕虜の皆さんが、それほど寛容であるためには、どれほどの心の葛藤があり、いかほどの努力が必要であったか。	T： そのとおりです。でも、安倍さんが云うと、侵略した相手に「寛容」を求めているように聞こえて仕方がないんですが、、、
U： そのことに、私たちは、思いを致さなければなりません。	U： 安倍さんに云われても、という感が拭えないのは私だけでしょうか？
V： 寛容の心によって、日本は、戦後、国際社会に復帰することができました。戦後七	V： 一方的な「和解」に持ち込んだケースもありましたし、「和解」が成立したと考え

十年のこの機にあたり、我が国は、和解のために力を尽くしてくださった、すべての国々、すべての方々に、心からの感謝の気持ちを表したいと思います。

ていない被害者の方も多いです。

W: 日本では、戦後生まれの世代が、今や、人口の八割を超えています。あの戦争には何ら関わりのない、私たちの子や孫、そしてその先の世代の子どもたちに、謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません。しかし、それでもなお、私たち日本人は、世代を超えて、過去の歴史に真正面から向き合わなければなりません。謙虚な気持ちで、過去を受け継ぎ、未来へと引き渡す責任があります。

W: 「(後世に)謝罪を続ける宿命を背負わせてはなりません」と言いますが、戦後70年経った今もって尚、戦争被害者に対して戦争犯罪を認罪した上での謝罪はしていません。遺憾の意を表する程度です。認罪していないものですから賠償金も支払っていません。支払った金はあくまで弔慰金というお為ごかしでした。ですから、そういった主旨のお金を受け取らない被害者もいるのです。

キチンと認罪した上での謝罪があったなら「後世に謝罪を続ける宿命を背負わせる」ことにはなりません。記憶・記録を風化させない義務を我々のみならず後世も当然のことながら背負う宿命があり、そのことが戦争をさせない最大の力になります。

そう考えた上でなぜ安倍首相が「宿命を背負わせてはならない」と言ったのか。答えは簡単です。彼自身が認罪し謝罪するつもりが毛頭ないからなのでしょう。つまり今の若い世代がダシに使われた訳です。彼がしたくない行為を他の理由にすり替えたのです。今の若い人たちに強く求めます。あなた方はオモチャにされたのです。怒りなさい。

ドイツではナチス政権が犯した戦争犯罪を後世の世代が糾弾し続けています。その行為は近隣諸国に大変高い評価を受けているのです。自虐史観だとバカにされる日本とは大違いですね。今の若い世代に要求します。もし、時の政権に兵役に就くように仕向けられることを潔しとしないのなら、過去の事実を掘り起こし、御自分でその社会状況や戦場での様子を想像してみてください。普通の人たちの普通の暮らしが、家族が引き裂かれる事を想像してみてください。武力を使ってのした者勝ちで良いのでしょうか、考えて下さい。

昨今のNHKのニュースクリプトは、特に中国に対する報道は、蔑むような意味

	<p>合いをこめた表現を使うことがもっぱらのように分析できます。そういったスクリプトを四六時中間かされる日本人はいつの間にか中国人に対し、無自覚の差別意識に囚われることとなります。そのことが戦争を許容する最大の力となります。マスコミ（特にNHK政治部）の罪は大きいと思います。</p>
<p>X : 私たちの親、そのまた親の世代が、戦後の焼け野原、貧しさのどん底の中で、命をつなぐことができた。そして、現在の私たちの世代、さらに次の世代へと、未来をつないでいくことができる。それは、先人たちのたゆまぬ努力と共に、敵として熾烈に戦った、米国、豪州、欧州諸国をはじめ、本当にたくさんの国々から、恩讐を越えて、善意と支援の手が差しのべられたおかげであります。</p>	<p>X : 「戦争」は貧富の格差を格段に広げます。「貧しさのどん底」に貶められた日本国民もある意味被害者かも知れません。戦後まもなく中国の周恩来氏（当時首相）が「日本人民も日本兵士も戦争の被害者である」と言ったかと思いますが、でもそれは、日本人が言うべき話しではありません。なぜなら、戦争の最高指揮官である天皇に一億総懺悔させられた（東久邇稔彦内閣）からです。国民の多くも戦中・戦後の辛酸をイヤと云うほどに嘗めさせられた責任を戦争遂行者に求める機運が高まり敗戦責任論が横行しました。でもそれは「負け戦をしやがって」というどこかしらで戦争を肯定する戦前からの気質が抜け切れていなかったと思います。東南アジア諸国に戦争の惨禍をもたらしたという戦争加害国の国民であるという自覚に疎かったのは、沖縄を除いて日本が直接の戦場になり得なかった、大規模絨毯爆撃などの戦争被害の体験しかなかったことから、致し方のないことかも知れません。</p>
<p>Y : そのことを、私たちは、未来へと語り継いでいかなければならない。歴史の教訓を深く胸に刻み、より良い未来を切り拓いていく、アジア、そして世界の平和と繁栄に力を尽くす。その大きな責任があります。</p>	<p>Y : そのとおりです。</p>
<p>Z : 私たちは、自らの行き詰まりを力によって打開しようとした過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、いかなる紛争も、法の支配を尊重し、力の行使ではなく、平和的・外交的に解決すべきである。この原則を、これからも堅く守り、世界の国々にも働きかけてまいります。唯一の戦争被爆国として、核兵器の不拡散と究極の廃絶を目指し、国際社会でその責任を果たしてまいります。</p>	<p>Z : 戦争法案を数の暴力で押しきろうとする安倍首相が、何をか言わんや、と思います。権力者が強権を発動した上での「法の支配」と云われても、、、</p>

AA： 私たちは、二十世紀において、戦時下、多くの女性たちの尊厳や名誉が深く傷つけられた過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、そうした女性たちの心に、常に寄り添う国でありたい。二十一世紀こそ、女性の人権が傷つけられることのない世紀とするため、世界をリードしてまいります。

AA： 従軍慰安婦は存在しなかった、と強弁するに過ぎない言い回しですね。

AB： 私たちは、経済のブロック化が紛争の芽を育てた過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、いかなる国の恣意にも左右されない、自由で、公正で、開かれた国際経済システムを発展させ、途上国支援を強化し、世界の更なる繁栄を牽引してまいります。繁栄こそ、平和の礎です。暴力の温床ともなる貧困に立ち向かい、世界のあらゆる人々に、医療と教育、自立の機会を提供するため、一層、力を尽くしてまいります。

AB： 安倍首相はTPP推進者ですね。公約違反ですし、舌が何枚有るのかしら。

AC： 私たちは、国際秩序への挑戦者となってしまった過去を、この胸に刻み続けます。だからこそ、我が国は、自由、民主主義、人権といった基本的価値を揺るぎないものとして堅持し、その価値を共有する国々と手を携えて、「積極的平和主義」の旗を高く掲げ、世界の平和と繁栄にこれまで以上に貢献してまいります。

AC： 戦争法案で米国と組んで世界的ヘゲモニーを確立しようと考えているのでしょうか。ヤバすぎます。もしくは日本の経済界や安倍レジームはいずれ経済破綻をご破算にする切り札である「有事」を切ることになるかも知れません。

AD： 終戦八十年、九十年、さらには百年に向けて、そのような日本を、国民の皆様と共に創り上げていく。その決意であります。

AD： 早く辞めて欲しい。

平成二十七年八月十四日 内閣総理大臣 安倍 晋三

平成二十七年八月十六日 便利業 笠井 一朗